

## 飯舘村婦人会が奉仕作業



5月12日、飯舘村婦人会（長谷川花子会長／前田）の皆さんが交流センター「ふれ愛館」の敷地内で草刈作業を行いました。この奉仕作業は3回目で、この日は約20人が、道路側の花壇周りを中心に、細かい部分まで丁寧に作業しました。また、婦人会では会員を募集中。年齢を問わず個人でもグループでも入会OK。和気あいあいと活動しています。入会ご希望の方は会まで連絡を。

## 話題のパレット

### 宮内老人会が花壇に植栽



4月25日、宮内行政区の老人会（菅野正男会長）の皆さんが、綿津見神社の新しい駐車場の花壇に、たくさんの水仙を植えました。なんとこの植栽は、前日の総会で決まったそう。多田直正さんが自宅の水仙を提供し、急なこととは思えない手際の良さで作業が進んでいました。今後も集会所などの美化活動を計画しているそうです。

### 渋谷公園通に飯舘の花壇



渋谷公園通（東京都渋谷区）の花壇に、村産のペチュニア150株が植栽されました。植栽は、渋谷公園通商店街振興組合の取り組みで、毎年この花壇から、村へのエールを送っていただいています。コロナ禍前は、村の児童が招かれており、同組合からは「新型コロナが収束したら、また子ども達と一緒に植えたい」とお話をいただいています。

### 南相馬同窓会「小さなお茶会」



4月21日、「南相馬市飯舘同窓会」（三浦盛会長／小宮）が「小さなお茶会」を開催。石神生涯学習センターで約40人が、杉岡村長、いたてクリニック医師の本田徹先生も迎えて、にぎやかに交流を楽しみました。このお茶会は避難先自治会の当時から被災者支援団体café de FUKUSHIMA（石川和宏代表）の支援で開催されていて今回が41回目の開催となりました。

## はなれていても

小林将男さん（関沢）千葉県山武市在住



大震災に伴う原発事故の後、村に避難指示が出る前から牛の移動先を探し始めました。出荷が近かった20頭を宮城蔵王へ移動。残る約80頭には、県が出した移動先の候補から、一番多く牛を選べる千葉県山武市の牛舎を選びました。それから仲間の協力をもらい、トラック数台で何度も往復。当初は水も電気も来ていなくて、修理をしながら牛舎を整えました。見ず知らずの土地で、多くの人のお世話になりました。

地域にも徐々に受け入れていただいています。村出身の学生が私の牛を「まidea牛」と名付け、東京大学の学園祭で販売してくれたこともありました。牛舎貸与が終了する5年目に、山武市内に土地を求め、村の補助で新たに牛舎を建てました。現在は160頭程。出荷も安定的に行っています。山武市で肥育牛を出しているのはうちだけです。地域ブランドの「山武牛」で「まidea牛」としてふるさと納税返礼品にもなっています。ス

タッフも地元の方達です。この10年間は、とにかく仕事。自分で決めたことですからね。振り返れば寂しかったこと、辛かったことも、毎日の仕事があったから忘れていられたんですね。だからこれからは楽しく、趣味を兼ねた牛飼いにしたいなと思います。飯舘村にも、受け入れていただいた山武市にも、私の育てた牛の肉で、感謝の気持ちを届けていきたいです。おいしい笑顔を見るのが、私は何よりも好きなので。機会があれば、飯舘で畜産を頑張っている方への応援もしたいと思っています。飛び交う蛍、美しい星空、新緑、秋の稲刈り…村の風景を今も懐かしく思い出します。けれど牛を連れて戻るには、また一から環境を整えなければなりません。気力があっても体力がね、もうそこまでないかなと思います。家とお墓のある飯舘に戻れる日が来るのだろうか…それはまたこの後のテーマになるでしょう。

### 交流センター「ふれ愛館」だより

おすすめ図書を紹介しします

#### 本田徹先生より 寄贈図書8冊

4月6日、「いたてクリニック」の本田徹先生より、寄贈図書として「人は必ず老いる。その時誰がケアするのか」他7冊をいただきました。本田徹先生は、「村民のみならず慣れ親しんでほしい」「発展途上国など世界の医療にも目を向けてほしい」「病気にかからないように健康増進を行ってほしい」と、おっしゃっていました。村民の健康を願う寄贈に至ったそうです。交流センター入口を入つてすぐの本棚に置いてありますので、ぜひ手に取って読んでみてください。



「交流センターよりお願い」  
交流センターから本を借りている方で、長期的に返却されていない方は、早めの返却をお願いします。